

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/18

各国で分かれる金利先高観

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↘	豪州の金利先高観は高まるか 予想レンジ: 84.80 ~ 90.00 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	↘	金利先高観後退で上値は重そう 予想レンジ: 64.70 ~ 67.20 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↗	3月CPIが気になる 予想レンジ: 11.80 ~ 12.40 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 4/11~15の主な推移



4/11 Monday	前週末9日に米予算協議が基本合意に至り、連邦政府機関の一部閉鎖が回避されたことなどが好感され、週初からドル/円市場でドル高・円安が進行。豪ドル/円はこの円安に連れて値を上げた。また時間外のNY原油先物が113ドル台半ばまで上昇した事と併せて、リスクを積極的に取る動きから豪ドル/円は一時、2008年9月以来となる90.00円の高値を付けた(①)。
4/12 Tuesday	8時過ぎに千葉県で震度5弱の地震が発生すると、市場ではリスクを回避する動きから豪ドル円は下落。また原子力保安院は11時からの会見で、今回の福島での原発事故の国際評価尺度について、最悪の「レベル7」に引き上げると発表した。更に12時過ぎには東京電力が「放射性物質の放出量はチェルノブイリを超える可能性がある」との見解を示すと、リスク回避の動きが加速し、豪ドル/円は下落。スワン豪財務相の「豪ドル高は豪州経済の重し」との発言も意識され、豪ドル/円は86.83円まで値を下げた(②)。
4/13 Wednesday	JPモルガン・チェースの好決算を受けてNYダウ平均が高く始まった事に加え、在庫統計でのガソリン在庫減少を受けてNY原油先物が107ドル台まで上昇すると、豪ドル/円は一時88.52円まで上昇した(③)。
4/14 Thursday	前日13日に、格付け会社S&Pやショイブレ独財務相などからギリシャの債務再編についての言及が相次いだことが、欧州時間に蒸し返されて欧州株が下落。市場ではリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は一時86.94円まで下落した(④)。
4/15 Friday	中国3月消費者物価指数は前年比+5.4%と予想(+5.2%)を上回り、中国の金融引き締め懸念から、同国と経済的結び付きの強い豪州経済への影響が懸念され、豪ドル/円は下落(⑤)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

今週は4月19日に、豪準備銀行(RBA)理事会の議事録の公表が予定されている。しかし、今月5日のRBA理事会での政策金利発表後の声明は前回3月とあまり変わらない内容であったため、今回の議事録で目新しい内容が出る可能性は小さいと見られ、市場の関心は低そうである。

それよりも今週の豪ドル/円は、早くも今月27日に発表が予定されている豪第1四半期消費者物価指数が意識されそうである。豪州では20日に第1四半期輸入物価指数、21日には第1四半期生産者物価指数の発表が、それぞれ予定されている。これらの発表を受けて消費者物価指数の上ブレ期待が高まり、来月のRBA理事会での利上げ期待へとつながるようだと、豪ドル/円は強含む展開も予想される。ただし、これらが市場予想を下回り、豪州の金利先高観が後退するようだと、豪ドル/円は弱含む展開もありうる。(川畑)

(予想レンジ: 84.80~90.00 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●AUD/JPY 4/15週足引値:87.74円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は4/11に90.00円まで上昇するも、相場は下落。その後は4/12につけた陰線内での小動きが続いている。目先はローソク足がこの陰線を上下どちらに抜けるかがポイントと見られるものの、一方で上下どちらにも抜けられないと、相場は小動きが続くことも予想される。

ボリンジャーバンドは4/15現在、上限:91.34円~下限:80.73円と、バンド幅は縮小に向かっており、上昇の動きは収まりつつあることを示している。

移動平均は20日線(4/15時点では86.03円)、60日線(同、83.77円)、200日線(同、81.23円)いずれも上向きとなっている。仮にローソク足が4/12の陰線を下抜ける場合、これらがサポートとして機能するか注目したい。

上値ポイントは①89.07円(4/12高値)、②90.00円(4/11高値)~90.44円(2010年高値88.04円~同年安値71.85円の値幅16.19円を、3/17安値74.25円に加えた値)、③91.34円(バンド上限)であり、下値ポイントは①86.69円(4/4安値)~86.83円(4/11安値)、②84.75円(3/17安値74.25円~4/11高値90.00円の値幅15.75円の1/3戻し)、③83.77円(20日線)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 4/11~15の主な推移



4/11 Monday	前週末9日に米予算協議が基本合意に至り、連邦政府機関の一部閉鎖が回避されたことなどが好感され、週初からドル/円市場でドル高・円安が進行。NZドル/円はこの円安に連れて値を上げた。また時間外のNY原油先物が113ドル台半ばまで上昇した事と併せて、リスクを積極的に取る動きからNZドル/円は一時66.57円まで上昇した(①)。
4/12 Tuesday	8時過ぎに千葉県で震度5弱の地震が発生すると、市場ではリスクを回避する動きからNZドル/円は下落。また原子力保安院は11時からの会見で、今回の福島での原発事故の国際評価尺度について、最悪の「レベル7」に引き上げると発表した。更に12時過ぎには東京電力が「放射性物質の放出量はチェルノブイリを超える可能性がある」との見解を示すと、リスク回避の動きが強まり、NZドル/円は64.75円まで下落した(②)。
4/13 Wednesday	JPモルガン・チェースの好決算を受けてNYダウ平均が高く始まった事に加え、在庫統計でのガソリン在庫減少を受けてNY原油先物が107ドル台まで上昇すると、NZドル/円は一時66.61円まで上昇した(③)。
4/14 Thursday	前日13日に、格付け会社S&Pやショイブレ独財務相などからギリシャの債務再編についての言及が相次いだことが、欧州時間に蒸し返されて欧州株が下落。市場ではリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は一時65.39円まで下落した(④)。
4/15 Friday	NY時間にNZのイングリッシュ財務相が「NZのインフレは問題とまらないだろう」「NZの第1四半期のインフレ率は4~5%の上昇となる見込み」と発言。市場ではインフレの抑制により通貨高を容認するとの見方から、NZドル/円は底堅く推移した(⑤)。

上昇要因 (NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因 (NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今週の見通し

18日早朝に発表されたNZ第1四半期消費者物価指数が市場予想を下回ったことで、市場ではNZ準備銀行(RBNZ)の早期利上げ観測が後退し、年内は政策金利を据え置くとの見方が強まった。これによりNZの金利先高観がやや後退しており、NZドル/円は上値の重さが意識されやすい週となりそうだ。

今週のNZでは、前述の消費者物価指数以外では主だった経済指標の発表が予定されておらず、先週に続き主要国の株価や商品市況などがNZドル相場を左右しそうだ。もし主要国での株価下落の動きの他、欧州のソブリンリスクや本邦の原発事故に対する懸念が強まる場面では、リスク回避の動きからNZドル/円は下げやすいと見られる。一方で株高や商品市況の上昇によりリスクを積極的に取る場面が出たとしても、NZの金利先高観の後退に加え、主要国の中で相対的に金利の高い豪ドルや南アフリカランドとNZドルとの金利差から、NZドル/円を積極的に買い進める理由は乏しいと見られ、NZドルの上値は限られる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ: 64.70~67.20円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●NZD/JPY 4/15週足引値66.45円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は週足上ではカラカサが出現。目先は上昇の勢いが弱体化している様子である。また上値は4/6高値(66.71円)が抵抗となりつつあり、ここを上抜けるようだと、カラカサは調整一服との解釈も出来、相場は一段高となることも考えられる。なお下値は引値レベルでは4/6安値(65.14円)が底堅くなっている模様である。

ボリンジャーバンドは4/15現在、上限: 68.76円~下限: 58.73円である。バンド幅は縮小に向かっており、目先の上昇の勢いは一服した模様である。

移動平均は20日線(4/15時点では63.75円)が60日線(同、62.56円)を上抜いた。また20日線や60日線に加え、200日線(63.36円)も上向きとなっている。下押しの際にはこれらが下値として機能するか注目したい。

上値ポイントは①66.71円(4/6高値)、②67.17円(2008年9月安値)、③68.70円(4/15時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①引値レベルで65.14円(4/6安値)、②64.22円(1/27高値)、③62.40円前後(60日線や200日線が位置)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 4/11~15の主な推移



4/11
Monday

前週末9日に米予算協議が基本合意に至り、連邦政府機関の一部閉鎖が回避されたことなどが好感され、週初からドル/円市場でドル高・円安が進行。また時間外のNY原油先物が113ドル台半ばまで上昇した事と併せて、リスクを積極的に取る動きからランド/円は一時12.79円まで上昇した(①)。だがNY市場では原油相場の下落や株安により、ランド/円は下落した。

4/12
Tuesday

8時過ぎに千葉県で震度5弱の地震が発生すると、市場ではリスクを回避する動きから豪ドル円は下落。また原子力保安院は11時からの会見で、今回の福島での原発事故の国際評価尺度について、最悪の「レベル7」に引き上げると発表した。更に12時過ぎには東京電力が「放射性物質の放出量はチェルノブイリを超える可能性がある」との見解を示すと、リスク回避の動きが加速。ランド/円は12.37円まで値を下げた(②)。

4/14
Thursday

前日13日に、格付け会社S&Pやショイブレ独財務相などからギリシャの債務再編についての言及が相次いだことが、欧州時間に蒸し返されて欧州株が下落。市場ではリスクを取ることに消極的となる動きとなると、ランド/円は一時12.06円まで下落した(③)。

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

先週のランド/円は、3月後半から上昇してきており高値警戒感が出ていた中、市場ではリスク回避の動きが強まったことにより下落した。今週も本邦の原発事故の深刻化の懸念が強まる場合や、欧州のソブリンリスクが意識される場面では、リスク回避の動きからランド/円は下値模索の動きとなりやすい。一方で主要国での株高や原油を始めとした商品相場が上昇する場合には、リスクを積極的に取る動きからランド/円には上昇圧力が掛かることが予想される。

今週南アフリカでは、20日に3月消費者物価指数の発表が予定されている。本稿執筆時点での市場予想は前年比+4.0%と、前月(同+3.7%)よりインフレが進むとの見通しとなっている。同指数は昨年9月(同+3.2%)を底に反発基調となっており、仮にインフレの進行が確認され、来月に発表が予定されている同国の第1四半期失業率の低下へとつながる場合、同国の利上げ期待が浮上することも予想されるだけに注目したい。(川畑)

(予想レンジ:11.80~12.40円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 4/15週足引値:12.19円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は4/8高値(12.84円)後に調整局面入りとなり、4/14には12.06円(3/17高値10.50円-4/8高値の値幅2.34円の1/3戻し)まで下落。ただ2日連続でこのレベルで下支えされ、15日の足形は20日線をわずかに下抜けたとはいえ、寄り同事線が出現。今度ローソク足が20日線を回復する場合、相場には反発余地が生まれる可能性もある。

ボリンジャーバンドは4/15現在、上限12.98円~下限:11.44円と、バンド幅が縮小。3月後半からの上昇トレンドは一旦落ち着いた模様である。

移動平均は20日線(4/15時点では12.21円)、60日線(同、11.79円)、200日線(同、11.84円)いずれも上向きとなっている。今後60日線が200日線も上抜くようだと、上昇トレンドは息の長いものになる可能性も出てくると共に、下押しの場面ではこれらが下値として機能するか注目したい。

上値ポイントは①12.32円(4/14高値)~12.37円(4/12安値)、②12.68円(4/12高値)、③12.84円(4/15高値)であり、下値ポイントは①12.06円(4/14安値)、②11.84円(200日線)、③11.67円(前述の値幅2.34円の1/2戻し)である。である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/18~22)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/18 (月)	07:45	◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前期比]	+2.3%	—
		◎	(NZ) 第1四半期消費者物価 [前年比]	+4.0%	—
	23:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・速報	-10.6	-11
	23:00		(米) 4月NAHB住宅市場指数	17	17
4/19 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	—	—
	17:00		(ユーロ圏) 2月経常収支	-7億EUR	—
				(ユーロ圏) 2月建設支出 [前月比]	+1.8%
	20:00	◎	(加) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.6%
		◎	(加) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.2%	+2.8%
	21:30	◎	(米) 3月住宅着工件数	47.9万件	52.5万件
	21:30	◎	(米) 3月建設許可件数	51.7万件	54.0万件
	21:30		(加) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	21:30		(加) 2月卸売売上高 [前月比]	+1.5%	—
	4/20 (水)	8:50		(日) 3月貿易収支(季調済、通関ベース)	+5560億円
10:30			(豪) 第1四半期輸入物価指数 [前期比]	-3.8%	—
	15:00		(独) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.5%
	17:00		(南ア) 3月消費者物価指数 [前年比]	+3.7%	+4.0%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	20:00		(南ア) 2月実質小売売上高 [前年比]	+6.4%	+7.0%
		◎	(米) 3月中古住宅販売件数	488万件	500万件
	23:00		(米) 3月中古住宅販売件数 [前月比]	-9.6%	+2.5%
4/21 (木)	10:30		(豪) 第1四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.7%	—
	14:00		(日) 2月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	104.2	—
			(日) 2月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	106.3	—
	17:00		(独) 4月IFO景況指数	111.1	110.5
	17:30	○	(英) 3月小売売上高指数 [前月比]	-1.0%	-0.3%
		○	(英) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.2%	+1.2%
	21:30	◎	(米) 4/16までの週の新規失業保険申請件数	41.2万件	—
	21:30	○	(加) 2月小売売上高 [前月比]	-0.3%	+0.5%
	23:00	◎	(米) 4月フィラデルフィア連銀景況指数	43.4	37.0
	23:00		(米) 2月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	—
23:00		(米) 3月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	+0.3%	
4/22 (金)	—		ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン、トロント、南ア休場(グッドフライデー)		

巻末の特記事項を必ずお読みください。

米主要企業決算発表予定

4/18 Monday	ハリバートン、シティグループ、
4/19 Tuesday	ノーザン・トラスト、U・S・バンコープ、バンク・オブ・NYメロン、 ゴールドマン・サックス、インテル、ヤフーインク、ステート・スト リート、ジョンソン・エンド・ジョンソン
4/20 Wednesday	IBM、AT&T、ウェルズ・ファーゴ、アメリカン・エキスプレス、 アップル、
4/21 Thursday	マクドナルド、ゼネラル・エレクトリック、モルガン・スタンレー、 ベライゾン・コミュニケーションズ、

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com